

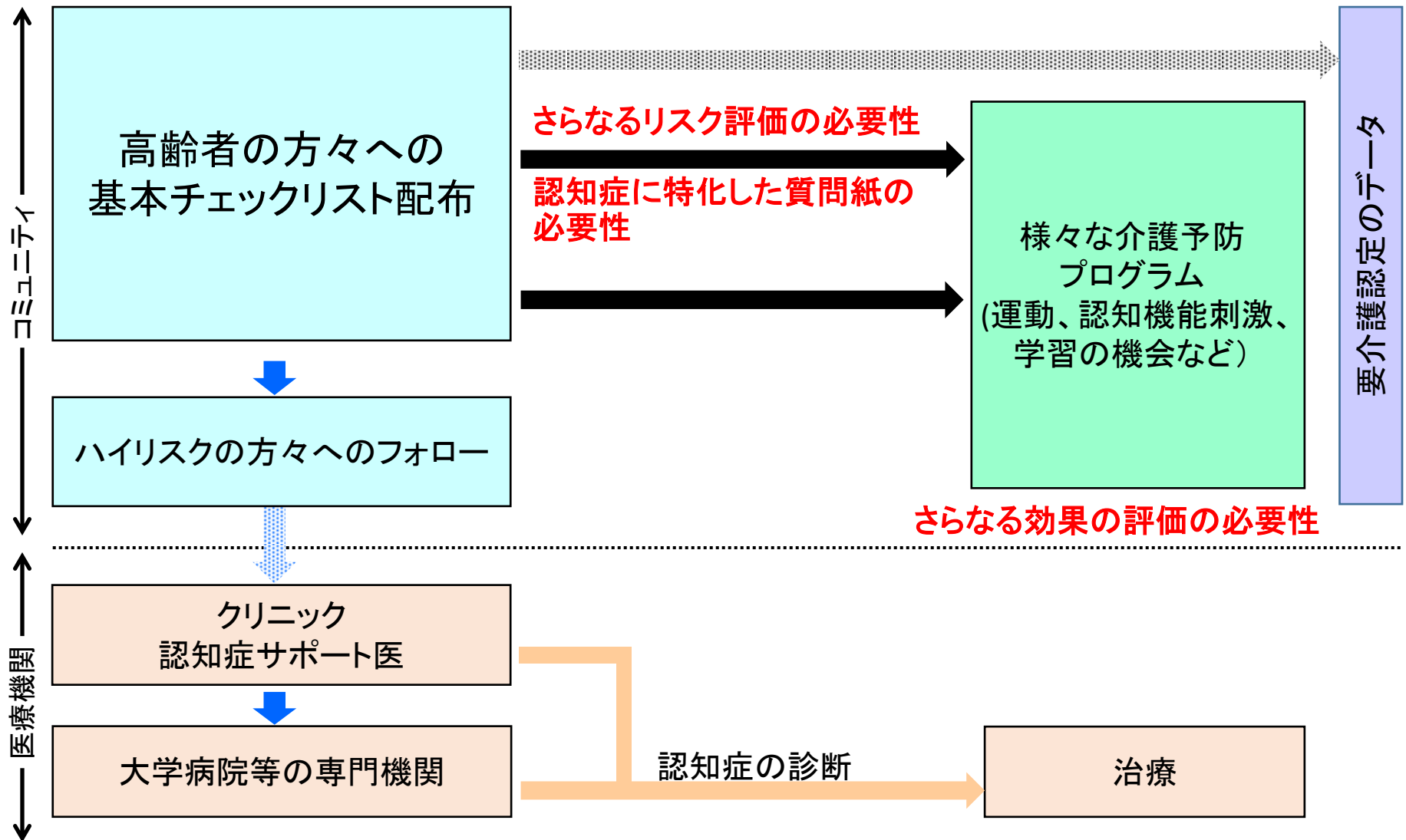
認知症の社会負担軽減に向けた 神戸プロジェクト

神戸大学(大学病院)、WHO神戸センター
協力:神戸市、先端医療財団、神戸学院大学

研究のポイント

- ある時点における認知機能と、将来的な介護リスクの関係性を明らかにする。
- 認知機能低下を遅らせる効果的な介入方法に関するエビデンスを探索する。
- 認知症の早期発見、早期介入を実現する地域モデルを提示する。
- 他県・他地域、そして世界に向けて政策オプションを提供する。

早期発見・早期介入に対する これまでの神戸市のシステム

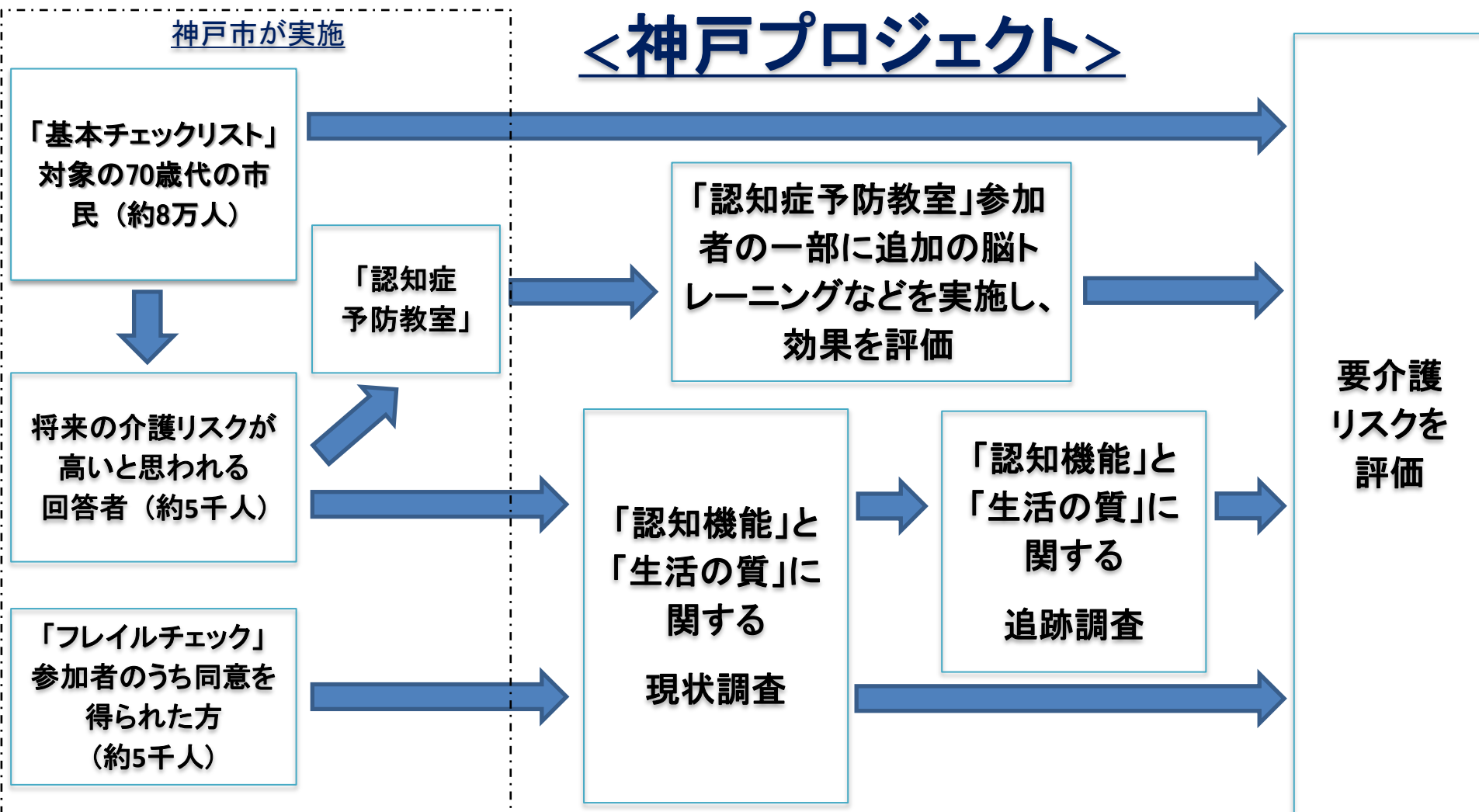


➡ 統計学的(量的)な評価と解析に基づく改善が必要

今回の研究で取り組むこと

- これまで使ってきた質問紙による調査データの解析・評価
- 早期の認知機能低下に焦点をあてた、新しい質問紙を使った調査・解析・評価（社会参画調査との組み合わせ）
- 2つの年齢層での調査・解析・評価
- 長期的な認知症予防を目指した介入プログラムの実施

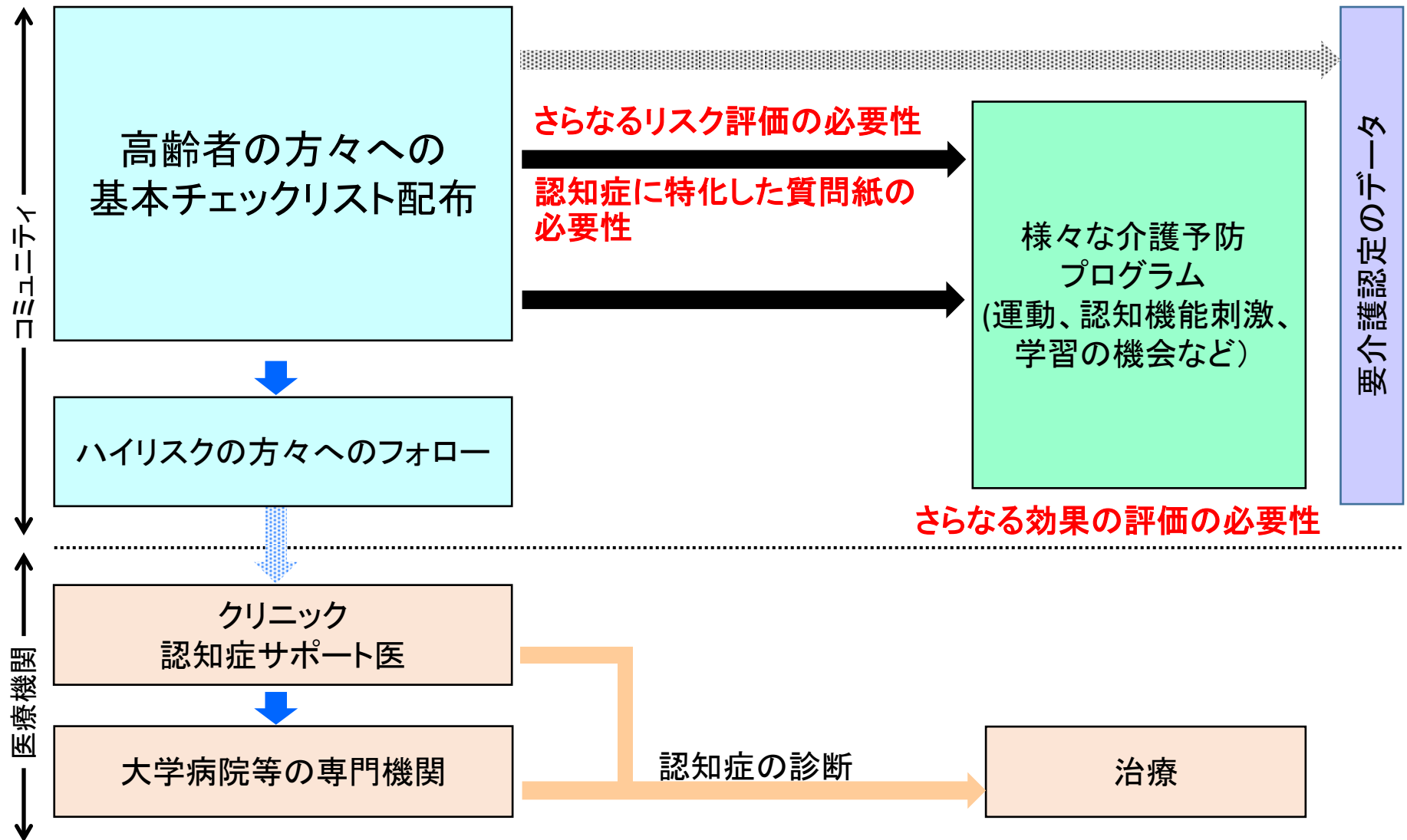
研究の全体像



研究成果の活用

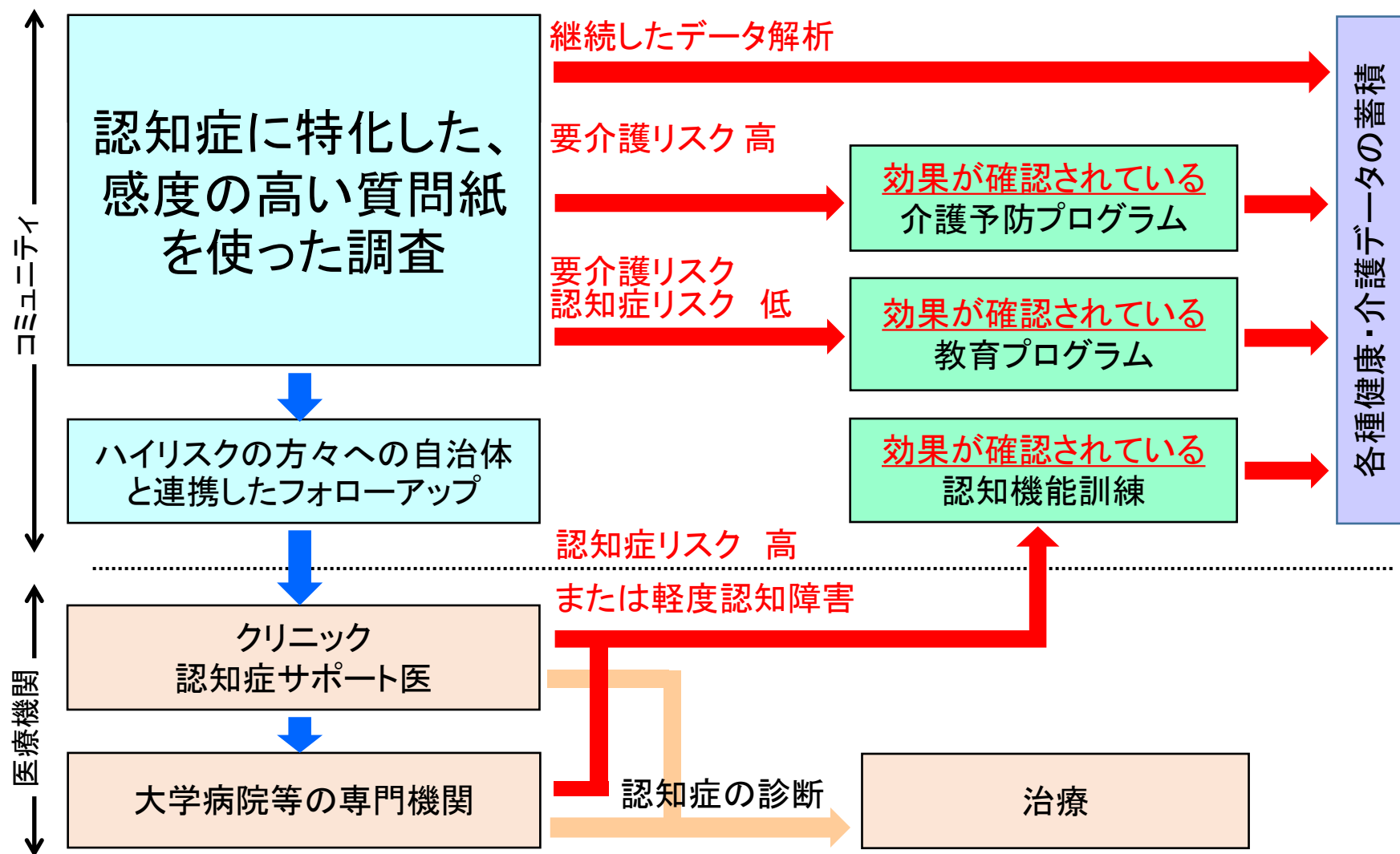
- 英字論文として世界に向けて発表
- 神戸市への政策提言に反映
- 「早期発見・早期介入」の大都市における「実践」のモデルとして提示
- 「実践→評価→改善→実践」というサイクルを、行政と学術機関が協力して施策に反映している、というモデルを世界に発信できる可能性

早期発見・早期介入に対する これまでの神戸市のシステム



➡ 統計学的(量的)な評価と解析に基づく改善が必要

認知症と向き合う「未来の神戸市」の可能性



出典: Dr Yoji Nagai 2016

➡ データの蓄積と解析、評価と改善のポジティブな循環をつくっていく

“全ての年齢の人に優しい社会を”

ボケない秘訣は
「キョウヨウ」と「キョウイク」。

「今日、用がある」と
「今日、行くところがある」の二つ。

(出典:朝日新聞「天声人語」2013年7月14日 一部加工)

ありがとうございました

平成29年9月23日

WHO健康開発総合研究センター 医官

茅野龍馬